毎日歌壇

加藤　治郎　選

ほんとうはどんな人間だったのかもうわからずに歯を磨く、朝　宮古島市　塩見　佯

△評▽自分自身に問いかけているのだろう。昨日までを振り返る。自分の本質はなんだったか。朝、苦い思いが感じられる。

つよい風が画廊を抜けた　絵のなかの老婆に返す麦わら帽子　雲南市　熱田　俊月

△評▽アートの場である。幻想は親しい。身体感覚に訴えるからリアリティーがある。

海岸に埋まるStatue of Libertyあの衝撃をいまも忘れぬ　摂津市　石少山裏裏

メロンパン買った短歌にいいね来る日本メロンパン協会の　東京　稲山　博司

淋しさにサイズがあると知ってからSサイズならフツーに余裕　大阪市　角野天十里

国内外老若男女人種問わずいつも道を聞かれるのはなぜ　相模原市　榎本　ハナ

いきものは辞められないわ遠火事のゆらめくままに花瓶を買って　さいたま市　霧島あきら

映画館を出るみたいにこの生が終わるとすれば　なんて　朧夜　四万十市　佐竹　紫円

自転車のサドルが高すぎる夢をいまでもみます四十代です　津市　川原田明子

消しゴムを借りるときにはドキドキとしていた君といま暮らしています　守谷市　久保田洋二

水原　紫苑　選

棘はあなたを弱くさせない　とりどりの野薔薇めざめよ詩のふところに　加古川市　石村　まい

△評▽詩の抽象から具体の野バラを呼び出す、逆方向のメッセージが力強い。詩人から詩への限りない愛の歌。

手をかざす火の中に僕がいることは向かい合ってる僕しか知らない　鳥取市　中之島　潤

△評▽では、向かい合っている火とは一体誰なのだろう。それは誰が知っているのか。

くるぶしも記憶も意図も融けだしてランナーの眼のさらに澄みゆく　東京　境　千尋

いくたびも拒絶するごと羽ばたけりスロー再生動画に蝶は　東京　富見井高志

田園の魚よ　髪を巻きつけて何処に行こうというのでしょうか　岡山市　松井　度

真っ白な紫陽花　染まらないことが夜ごと野犬を追い詰めてゆく　東京　遠野　鈴

変電所の金網はいい金網で、孤高を貴方も飼っているのね　長岡市　三月　とあ

ゆうれいに乗り物があるなら海月　誰にも聞かず誰にも言わず　宝塚市　白川　楼瑠

舌先の火傷を見せた此処は穢土だけどふたりでいれば強いよ　千葉市　星野　珠青

モーツァルトの「夜の女王」の独唱を目を閉じて聴くトノサマガエル　鎌倉市　佐々木　眞

伊藤　一彦　選

探してた鍵を見つけたそれでもね扉はすでにこの国にない　所沢市　里見　脩一

△評▽戦後80年を振りかえった歌として読んだ。作者が絶望してもうないという「扉」をぜひ見つけ出したい気持ちになる。

アレルギーの児の食事をチェックする誤字を見つける校正のごと　兵庫　廣澤　真希

△評▽食べ物のチェックはアレルギーの児童には重要だ。下の句の比喩が生きている。

来客に隠れる猫よ甘噛みをしているだけじゃ竜は倒せぬ　駒ケ根市　市山　利也

闇静かゴルトベルクのアリア聴く手を握ってくれる友のようなり　名古屋市　槇島　千町

アラスカに茜の雲のたなびけり午前一時の白夜のゆふやけ　横浜市　谷口　菜月

力強く肩甲骨のくぼみ推す娘の背負ふもの想像しつつ　伊丹市　岡本　信子

ひかりにも孤独はあって影だけがしずかに寄り添えるのであろう　四万十市　佐竹　紫円

あなたにも理解できない孤独です　なんて寂しいなんて幸せ　川崎市　水　面

浮世離れした人と言われたから天まで浮いてみようと決めた　相模原市　榎本　ハナ

三十年ずっと持ってる　盗まれた就職祝いのバイクの鍵を　金沢市　竹内　一二

米川千嘉子　選

和人、ヒロ子、浩之、武司　この家族は全員名前に話す口もつ　伊丹市　稲本真由美

△評▽作者の家族だろうか。作者の名前にも「口」が。みんな言いたいことを率直に言うのだろう。機知も楽しい一首。

化粧品売り場から下着売り場から微笑みかける世界のオオタニ　宮崎　門田　祥子

△評▽ポスターにパネルに。少し遠くから思い浮かべるとちょっと不思議な風景か。

両脚を振り子のように揺さぶってまめの潰れる夕の雲梯　横浜市　友常　甘酢

早乙女を知らぬAI田植機が歌うことなくまっすぐ植えたり　新発田市　飯田　英範

ハハハハハ泥田を上がりしトラクターどこまでも道にハの字をつけて　兵庫　石塚　律子

自撮り棒風に煽られいつまでも地球岬に立ちつくす二人　奈良島　眞澄

くっきりと海亀の足跡産卵の巣穴を隠す砂の高まり　延岡市　河野　正

「鈴木です。頑張って下さい」と言へば君首を横にぞ振り給ひたり　吹田市　鈴木　基充

改良し真紅の百合は大輪で香り失くして造花のごとし　西東京市　佐々木節子

会ふたびに「百まで生きる」と言ふ媼響く言霊吾にも入らむ　幸手市　中村　早苗

投稿規定　はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。

戦後80年　「平和」の作品募集

今年で戦後80年となるのに合わせ、戦争や平和について詠んだ短歌と俳句を募集します。通常の投稿（ネットとはがき）で受け付けます。締め切りは7月25日（必着）。入選作は8月11日の本欄で掲載します。

こちらから投稿できます